綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.493
発行責任者　阿部　友弘
編集責任者　松田　　覚

We Love Fukushima!!

～呼び覚ませ！文化と伝統を繋いだ新しい故郷（まち）への”無償の愛（アガペー）”を～

第52代理事長
阿部　友弘

はじめに

1963年、私たちの故郷であるこの福島の地に志を同じくする先輩諸兄が「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、社団法人福島青年会議所を設立なされました。その間、時代ごとの経済情勢や社会環境に応じた明るい豊かな社会の実現に向け、歩みを止めることなく創立52周年を迎えます。先輩諸兄より受け継いだ英知と勇気と情熱の灯をさらに次の世代に繋ぐべく、「不易流行」を念頭にJAYCEEとして時代の求める姿に対応しなくてはならない部分、そして決して変えてはいけない部分をしっかりと次代へ繋ぎながら地域社会から求められる団体となるようひとづくり・まちづくりに邁進してまいります。

公益社団法人として

2013年５月に福島青年会議所は公益社団法人として登記されました。これにより法的にも我々の運動は「公益である」と認められるに至りました。これはゴールではなく新しいスタートだと考えます。維持・継続に向けた会員の資質向上を行い、その結果として地域社会からより一層信頼され、求められる団体となるよう、そして市民から愛され必要とされる団体として存続できるよう努めてまいります。

未来を担う子どもたちへ

東日本大震災から３年以上が経過しました。建物や道路の復旧は進んでいますが、福島から遠方へ避難した人はなかなか戻ってきておりません。同様に未来の福島を担うべき子どもたちも避難先から戻ることなく減少しています。ローカルコミュニティが崩壊するほどの「震災後」という困難な時代でありながらも、しっかりと子育てをしながら家族を守っている自分の親や家族、地域社会に対し誇りや愛情を持った子どもを少しでも多く育成すべく青少年育成事業を実施し未来のリーダー育成に尽力いたします。

愛する故郷のために

放射能問題は風化するどころか、実際に福島で生活している我々の予想もしない方向に進んでいるのかもしれません。一歩、福島から外に出ると誤解や偏見が未だに強く日本を覆っていると感じます。その中にあって福島に住んでいる我々が誇りと郷土愛を捨てるわけにはいきません。むしろ世界的に注目される今だからこそ、地域のたからを掘り起こし、市民が愛し誇れる郷土・福島を創出する事業を、市民を巻き込んで行い福島の元気と現状の打破を発信するべきだと思います。また、震災後の新たなるまちづくりへの契機となるような機会を創出し、市民へ提唱いたします。

会員拡大

地域の人口減少に伴って青年会議所運動の根幹で

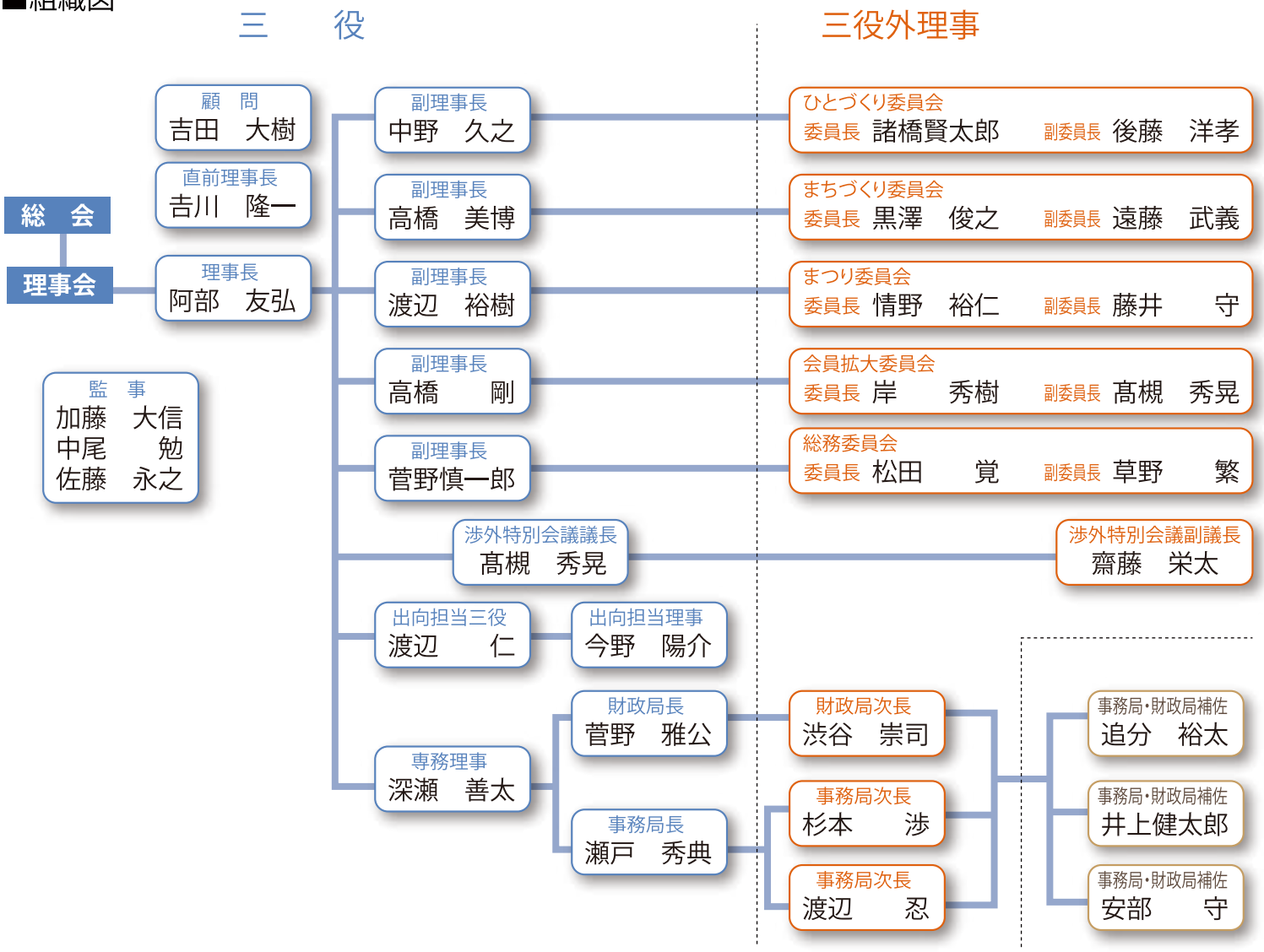
あるメンバーの減少もここ数年顕著です。先輩諸兄が築いてこられた地域社会からの信頼も会員がいることで各運動を行うことができることから由来しており、会の更なる発展のためにも会員拡大は急務であると考えます。他団体や他ＬＯＭでは昨今の厳しい経済環境・地域条件により会員拡大が困難であるとの話もあります。しかし我々の活動は間違いなく地域に必要とされています。このことに誇りを持って常に新たな試みを展開し、地域社会からの信頼と付託に応える魅力ある団体として「自己修練の場」「友情を育む場」「社会奉仕の場」を提供し多くの仲間を迎え入れられるような会員拡大を行ってまいります。

東北の夢

2013年の小畑会頭輩出、2014年のＡＳＰＡＣ山形大会開催、そして2015年に開催される全国大会東北八戸大会が新東北３つの夢として掲げられ、いよいよ集大成を迎えます。同時に2015年は同じ県北エ

リアの二本松ＪＣが浪江ＪＣと共催で東北青年フォーラムを主管します。どちらの大会も福島の復興、そして東北の復興を全国のメンバーに発信し、東北がそして福島がひとつになるまたとないチャンスです。主管ＬＯＭと共に恩返しの精神でお迎えをするために協力を惜しまず、大会の成功に向け心を一つにしていきましょう。全国のメンバーとの友情を育み増進するまたとないチャンスです。

■組織図



真の復興に向けて

2011年３月11日に発災した東日本大震災から数年が経過し、近県では復旧復興が加速しているという話も耳にします。しかしながら福島に至っては東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能事故の影響で帰還すらままならない避難されている方が数多くいらっしゃいます。福島市内にも仮設住宅で暮らす方や福島から遠く離れて暮らす福島市出身の方も同様です。インフラストラクチャーや可視的な物的復旧だけではなく、心のケアや郷土愛などのソフト面での復興には我々の活動が必須であると言っても過言ではないでしょう。多方面より差し伸べられる手に感謝と友情を感じ、広く市民へ伝えていくことこそが故郷福島の真の復興への道そのものであると感じます。市民の意識変革を喚起する事業を通して復興への一助となるよう努めてまいりましょう。

結びに

入会以来、ＪＣを自己修練の場として活動した結果、自らの成長を実感しているメンバーも多いと思います。私もその一人です。組織の性質上いつかは去らねばならない時が来ますが、成長させていただいた「福島青年会議所」に対し恩返しをしましょう。たとえばそれは成長途上の後輩に対し自らも先輩諸兄からいただいた叱咤激励を、愛情をもって伝えることだと思います。それまでできなかったことが、ある時、誰かに助けてもらいながらできるようになった。次はできずに困っている誰かを助けて、その誰かができるようになるまで助ける。その繰り返しこそが脈々と受け継がれてきた青年会議所運動の原点であるはずです。　そしてその運動の中で互いに切磋琢磨し、メンバー各自が卒業してからも愛する故郷福島のために自分で何ができるかを考え行動することが明るい豊かな社会の実現へと繋がると確信しております。

次世代へ実りある遺産を遺すこと。これは世代としての責務です。一人ひとりの力は微力ですが、福島を想い福島を愛する仲間・同志として同じ意識を持ち、持てる力を余すところなく発揮することで相乗効果を期待できます。震災後の大きなうねりの中だからこそ、市民を巻き込み、次世代へ背中を見せる行動をとり品格ある青年として共に成長してまいりましょう。

「良い種をまけば良い実がなる」ある経営者の言葉ですが、福島のより良い未来のためには我々が良い種をまく必要があります。そして我々青年に必要なのは口舌ではなく行動なのです。今だから、そして今しかできない未来への第一歩を我々の手で築きましょう。

最後に、福島青年会議所　第５２代理事長という身に余る重責を与えてくださいました全ての皆様に深く感謝申し上げると共に、私の持てる力の限りを尽くして職責を全うすることをお誓い申し上げ理事長所信とさせていただきます。

委員会紹介

ひとづくり委員会

ひとづくり委員会で青少年育成事業の開催では、未来の福島を担う子どもたちが「笑顔」になれるような事業を開催したいと思います。子どもたちの「笑顔」は親や家族にとっても地域社会にとってもなくてはならない重要なものです。その「笑顔」を少しでも多く子どもたちに与えられるように事業を企画していきたいと思います。

次に、わんぱく相撲の開催では、今年度同様に参加者の増員に力を入れ、相撲のおもしろさを多くの子どもたちに広めたいと思います。また、2015年度は福島ＬＯＭでのブロック大会の開催ですので、盛大に開催したいと思います。

2015年度ひとづくり委員会は、自分たちも楽しみながら１年間運営していきたいと思います。委員会メンバーが楽しまないと集まってくれる子どもたちも楽しくなれないはずです。

委員長　諸橋賢太郎　　副委員長　後藤洋孝

委員

阿部　秀介	石郷岡　武	井上健太郎
尾形　彰彦	菅野　仁美	今野　陽介
齋藤　栄太	佐藤　博子	土屋　令雄
誉田　憲孝	八島　成友	

まちづくり委員会

東日本大震災を受け、ここ福島の様相は一変してしまいました。放射能問題、急激な人口減少、風評被害など、様々な問題が突然そして一気に降りかかってきました。様々な試みが為されていますが、残念な事にこれらの問題は解決していません。私達のふるさとである福島を、震災以前よりも健全で明るい豊かな「まち」にするため、「まちづくり」の名のもと、活動をしていきたいと考えています。福島が福島市民にとっても、そしてその他の人たちにとっても魅力ある「まち」となるために努力してまいります。

2015年度のまちづくり委員会は、福島市のシンボルでもあります信夫山を活用しての「パークランニングレース」及び「桜の植樹事業」の実施を予定しています。第三回目となる想いの詰まった継続事業であり「ホップ・ステップ・ジャンプ」で例えるなら大きく飛躍する「ジャンプ」の時であります。どれだけのビッグジャンプとすることができるか、胸躍らせながら共に事業を作り上げていきます。

「福島といえば？」という問いに皆さんは何とお答えになりますか。きっと、幾つもの答えが出てきて、そのどれもが今一つアピールが弱いと感じているのではないでしょうか。当委員会では全国的に根付き、福島市民がふるさとへの自信を持てるような「福島といえば！」を大発掘すべく活動して参ります。

委員長　黒澤　俊之　　副委員長　遠藤　武義

委員

安部　守	石森　敏彦	追分　裕太
近野　正樹	渋谷　崇司	鈴木　泰憲
中川　亮	堀合　郁雄	山村　忠之
阿部　敏幸		

まつり委員会

まつり委員会は福島の歴史、伝統文化、現代文化、自然、人間、まつり、まつりに関わる関係諸団体等、さまざまに事業開催も含めて深く関わる委員会であり、更に「自己修練の場」「友情を育む場」「社会奉仕の場」を意識しながら福島の魅力を再認識、再確認する事を第一のステップと掲げます。

そして第二のステップとして、己を含めた市民意識変革を起こし、「震災後」という困難な時代でありながらも、しっかりと子育てをしながら家族を守っている親や家族、地域社会に対し愛情を持った子どもを少しでも多く育成できる環境、そして自分の住んでいる福島を誇りに想い自慢できる「明るい豊かな社会」の実現に、歩みを進めて行きます。

さらに第一、第二ステップを通して学んだこと、またＪＣとして諸先輩方の英知と勇気と情熱の灯も受け継ぎ【継承】、その状況で受け身にならず受け継ぎ、そして後世に伝える【伝承】を委員会の最終ステップ、最大目標とさせて頂きます。

委員長　情野　裕仁　　副委員長　藤井　守

委員
遠藤　翼　大宮　篤　尾形優一郎
齋藤　学　鈴木　優　新田浩亜吉
福井　誠　宮崎　貴志　宮森　怜
吉田　潤平　渡部　敏　阿部　真澄
安齋　源

会員拡大委員会

今年度は新たな試みとして、セミナー形式の拡大事業を行いたいと考えております。公益法人格を取得したことで、より多くの方に福島青年会議所運動・活動を知っていただき、より多くの人材に門戸を開きたいと考えております。特に女性会員やサラリーマン会員の拡大を行いたいと思います。また一般企業、事業所に対しても飛び込みで次世代幹部の会員勧誘を定期的に開催します。同時に、従来通りＯＢ・現役メンバーからの新規勧誘情報をいただき、会員拡大活動の詳細をより見える化（メール・会員向けＨＰ使用）し、全会員で共有してまいります。

ＬＯＭ内での事業にも積極的に参加し、少しでも多くの時間を共有することで、メンバーが一丸となって会員拡大をする意識を醸成してまいります。

2015年度会員拡大委員会の信念は青年会議所活動は地域社会に貢献し、品格のある人財の育成、そして一生の友情を育むということを、出会う方に１００％伝えてまいります。

委員長　岸　秀樹　　副委員長　髙槻　秀晃

委員
伊藤　大地　井上　義郎　太田　憲一
倉島　央樹　駒田　晋一　酒井　隆弘
鈴木　正人　芳賀　眞　佐藤　一樹
丹野　裕美　野尻　伸吾

総務委員会

総務委員会は当青年会議所における事務業務・管理業務等を行う事で会員メンバーの活動をより良いものにする為にサポートをする委員会です。また当委員会は現役会員とＯＢ・他団体との関わりをもち、良好な関係を保つことで、当青年会議所の運営を潤滑にする役割も担っております。

2015年は諸先輩方が培った従来の業務を継承しつつ、新たな試みを交えていきます。業務・事業・交流とあらゆる要素備えた委員会となっております。

委員長　松田　覚　　副委員長　草野　繁

委員
池田　卓也　菅野　秀美　國分　秀晃
斎藤　秀人　高橋　貴之　多田　悠紀
森藤　淳　山本　昌史　吉田　卓弘
渡辺　仁　佐藤　大輔